



日本ミツバチの飼育を通して、森の実りを豊かにする

福島県立南会津高等学校 アグリ環境探究系列 舟木菱洋 君島咲人 穴澤和樹



1 みどり戦略との関連性

(1) 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

(2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組

日本ミツバチは趣味的に飼育している人が、まだまだ広がってはいない。

(5) 食料システムを支える持続可能な農山魚村の創造

(4) 多様な農地利用の促進

日本ミツバチは農業に弱いため、巣箱の設置場所は農地から離す必要があるが、有機農業であれば果菜類の受粉を助ける。天敵が熊であるため、熊対策を徹底することで、緩衝地帯としての役割を果たす。

2 目的・背景

令和6年度に依頼を受けて西洋ミツバチ飼育を行い、養蜂に興味を持った。地元の養蜂を調べると日本ミツバチを飼育している団体があること知り、この地域に適した養蜂は日本ミツバチによるものと確信し取組を始めた。

目的 ① 樹木の蜜を好むことから、森の実り（堅果類）を豊かにしてくれる可能性がある

② 森の実りが豊かになることで、野生動物が人里に出てくることを防げる可能性がある

これらを検証することを目的とした。検証できれば積極的にこの取り組みを広げてゆきたい。

3 取り組み内容

令和7年3月8日 日本ミツバチ田島愛好会の第1回総会に参加し、学習活動への協力を依頼した。

令和7年5月20日 日本ミツバチ田島愛好家の会長の湯田政則さんに来校いただき、日本ミツバチの行動特性や飼育場の注意事項を教えていただいた。日本ミツバチがどのような生物なのかが分かった。

どのような場所を日本ミツバチが好むのか、みんなで日本ミツバチの居場所に良いところを探し、巣箱を設置した。日本ミツバチのはちみつを食べることができた→西洋ミツバチとは違う甘さがあった。

令和7年5月23日 分蜂した日本ミツバチが巣箱に入ったことが確認できた。

令和7年8月3日 日本ミツバチ田島愛好会の第2回総会に参加し、熊に対する対策は必須であると再認識した。

令和7年9月4日 福島大学准教授の望月さんに来校いただき、獣害対策について講演していただいた。日本ミツバチを守るため、熊などの対策として電気柵を立てることにした。



4 結果

現在、2重の電気柵の中で日本ミツバチを1箱飼育している。日本ミツバチの飼育は今回の取組を通して、あまり気を使う必要がないと感じた。（毎日観察したが、日本ミツバチは逞しく活動していた。蜂球によってスズメバチを撃退することも確認した。）

ただし、熊対策は徹底する必要があることを多くの方から指摘をいただいた。電気柵と、監視用のトレイルカメラを設置し観察を続けている。電気柵は今のところ役立っている。トレイルカメラには鹿の姿はあるが、今のところ熊の気配はない。また、イノシシの足跡は巣箱付近にあるが、ハチミツには興味がないのか？今のところ巣箱に問題はない。

日本ミツバチによって森の実りが豊かになるのかについては検証できていない。また、検証の方法も難しい。



5 考察・まとめ

今年は全国各地で熊の被害が例年になく多く発生している。南会津でも9月13日に介護施設に熊が侵入する事件があった。日本ミツバチは熊の大好物であるため、しっかりとした対策を取らないと逆に熊を呼び込む恐れがある。森の実りを豊かにして人里に熊が降りてこないことを目的としているのに本末転倒になってしまう。

そもそも日本ミツバチは森林で生活する昆虫で、人里で飼うべきものでないのかもしれない。今後は日本ミツバチの個体数を増やし、森に返すことも検討していく必要がある。

また結果で述べたように、日本ミツバチの飼育によって森の実りが豊かになったことを検証するために何をもって比較するのか、植物の種類が増えていくのかを時間をかけて検証していく他ない状況である。

今年度実施された公開文化祭で野生動物による獣害対策をまとめて発表した。今後は日本ミツバチの飼育をメインにする活動から、獣害対策をメインとした取組に変わっていく可能性がある。

